動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2939番
（公）043（222）7207番
97.2.28 No. 4555.

JR東労組の

『真・春闘』＝『国労解体春闘』粉砕！

JR総連による「（九六）年内国労解体方針」は完全に破産した。「国労と国家権力が手を結んで、JR総連とJR東日本の経営陣を吹き飛ばすために下山・三鷹・松川事件のような謀略を仕掛けている」などと主張して、一斉に国労に襲いかかるという、ファシズムとしか言いようのない「方針」は、逆にJR総連内部の亀裂、組織の危機をより深刻化させている。JR総連を組織としてなりたたせているのは、背後にある当局の力だけである。

JR総連・革マルのファショ的な組織運営や方針に我慢できなくなった「平成採」の若者が、高崎・吹田など、次々と国労に加入し始めている。広島―岩国では、JR西労からの組織的脱退まで起きている。

こうして危機にたつJR総連は、生き延びるための唯一の方針として、ますます「国労解体方針」にのめりこまざるをえない。

新年号の機関紙で、JR東労組は、下記のように新たな国労解体方針を打ち出している。われわれはこれを、断固として迎え撃ち、逆に、JR総連解体―組織拡大のチャンスとして、全力で闘いを進めよう！

国労解体を叫ぶ 新年号機関誌！

松崎の「勝利宣言」

九七春闘は、四月からの消費税アップをはじめ、特別減税打切り、医療保険制度や年金の改悪、八時間労働制の解体、女子保護規定の撤廃を始めとした労働法制の抜本的な解体など、行革・規制緩和路線に基づく国家改造攻撃、一切の生活と権利の破壊攻撃が本格的に開始される状況のなかでの闘いだ。

行革・規制緩和攻撃や、日経連の雇用・賃金破壊攻撃、国益を前面にうちだしたベアゼロ論の背景には、経済再生への絶望と労働者の怒りの噴出に対する危機感がありありだ。

こうした支配階級の気持ちを察してか、JR東労組会長の革マル・松崎は、昨年一一月に勝浦で行われた、同労組政策フォーマルにおける講演で、「雇用を確保すれば、賃下げはやむなし」と、「ワークシェアリング」論を復活させ、「私たちはこれまでストライキをやったこともない」とJR東労組における「ストライキ撲滅」論を展開し、政府・支配階級の攻撃の先兵として立ち回った。

JR総連（革マル）打倒のたたかいへ！

そこから打ち出された、JR東労組・革マルの「春闘方針」が、「三月四日から国労とのたたかいを再展開する」とした、「国労解体」がすべての「真・春闘」なるものだ。

国労は、九七春闘を、三月一七日から二八日を最大の山場に設定し、「日経連の五年連続『ベアゼロ』攻撃に抗し、大幅賃上げ要求を掲げ〝行革合理化〟〝労働規制緩和〟に反対し、消費税率引き上げ・特別減税廃止・医療保険法改悪等々への怒りを総結集し、国民春闘の再構築を目指そう！」と、「ストライキを含む全国統一闘争を展開する」という方針を決定している。

いまや世界中で戦後かつてない規模で労働者の怒りが噴出し、ゼネストや一〇〇万人規模のデモとなって燃え広がっている。世界的な視野で見れば、労働運動は戦後最大の高揚期を迎えている。

しかし日本では、すべての攻撃に屈服する連合の下で、いまいち闘いがパッとしない。だから、国労のこうした戦闘的方針はものすごく重要だ。動労千葉も、三月ダイ改闘争と結合し、国労の仲間と連帯して、春闘をストライキで闘わなければいけない。

これと真っ向から敵対するものが、JR東労組の「国労とのたたかい」＝「真・春闘」なのだ。彼らの機関紙の主張どおり、支配階級の先兵として、「春闘をたたかう労働組合」を、「皆無」にしたいのだ。まさに、ファシストそのものだ！

JR総連・革マルの「真・春闘」方針粉砕し、大失業時代と対決する労働運動の再生と国鉄闘争の勝利に向けて、九七春闘を実力ストライキで闘おう！

JRU 1997年1月1日（水）
JR東労組 東京
第114号
東日本旅客鉄道労働組合 東京地方本部
東京都北区東田端2－20－68
JR東京地域本社ビル3F 電話 03-3894-3901 FAX 03-3894-3903
発行人 加藤 実 編集人 大久保 学
月1回（1日）発行／1部20円
（組合員の購読料は組合費に含む）

当面する取り組み '97

基本的な考え方

1月末まで
★諸手当改善、国労とのたたかい・中間総括月間

2月～3月4日（春闘総決起集会）まで
★10年間のJR東労組の運動の成果と意義の討議
★97〝真〟春闘の構築の討議
★国労とのたたかいの再討議

3月4日～4月上旬 10周年総対話行動
★97年〝真〟春闘の支部・分会での展開
★国労とのたたかいの再展開
★平成9年度問題等、政治介入を許さないたたかい

「'97真・春闘の取り組み」

三井金属のベア廃止、電機労連・鉄鋼の隅年春闘に象徴されるように、春闘をたたかう労働組合が皆無です。労働組合としてごくあたり前の取り組みとして、憲法を守り、平和を広め、労働条件を向上させるJR東労組春闘を全組合員の参加で、職場からつくり上げよう。俺たちの道は俺たちで切り開こう！そしてその輪を広げよう！